

学校法人東京 YMCA 学院 江東 YMCA 幼稚園

2024 年度 学校関係者評価（自己評価・関係者評価）報告

学校評価にかかわる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の改正に伴い、評議員会にて行っていた自己評価を今年度も学校関係者評価委員会を開催（書面）し自己点検評価をまとめましたのでホームページ等で公表いたします。広く皆様からのご指導を賜り、さらに幼児教育の理想に向かっていくための評価といたします。

I. 本園の教育目標

「主体的に生きる」

- A.子どもたちにとって、かけがえのない「幼児の日々」をゆっくり、大切に見守ります。
- B.子どもたちの生活＝「遊び」。その中で様々な経験をし、自立する力、社会性、想像力の育ちを支えます。
- C.ご家庭の豊かな愛情、先生やお友だちとの深い交わりの中で、自分が大好き！まわりの人も大好き！ともに成長できる心を育みます。

II. 本年度重点目標と取り組みと評価

A. 重点目標

- 1. 日本 YMCA の理念・使命、東京 YMCA の方針・目標を基盤に、江東 YMCA 幼稚園の想いの実現のため幼児教育を追求する。
- 2. 日々成長する子どもたちの為に、より主体的に自発的な遊びが展開できるよう工夫し豊かな教育環境を整える。
- 3. 人的環境としての教師の在り方を研究し実践に繋げる。
- 4. 2 歳児対象の、預かり保育の継続。
- 5. 子育て支援を目的とした朝 8 時からの継続と、夕方 18 時までの預かり保育の継続。
- 6. 満 3 歳児クラスの設置。

B. それぞれの取組状況と評価

- 1. 新入職員を加え、年度初めに改めて日本 YMCA の理念・使命、東京 YMCA の方針・目標を確認し合い、江東 YMCA 幼稚園の想いをしっかりと心に刻み新年度をスタートした。月ごと、学期ごとの教師会、日々の保育の振り返りなどで園児一人ひとりの成長を確認しながら 1 年間教育を進めてきたことで教職員が一致した保育感で子どもたちと共に過ごすことが出来た。子どもたちの成長に不可欠な教育として年間を通しての行事及び年間計画を作成している。豊かな経験から多くの成長がなされるとの想いに重点を置く教育を行っていることから、今

年度も行事や年間計画を考える時、「より子どもたちの主体性を重視した保育計画」「どのように考え環境を整えることで子どもたちが、ねらいに沿った豊かな経験ができるか」を教師全員で考え、実践した。

2. オンライン研修や対面の研修も多くなっている。特に前期は東京都の推進する、とうきょうすくわくプログラムに関する研修を多く受け、江東YMCA幼稚園が以前から取組んでいたことと同様に、子どもの主体的な学びを大切にする風潮が見て取れた。

また、東京YMCAの教育・保育事業部全体研修では春に新沢としひこ氏とのワークショップによって、保育に従事するスタッフの言葉から作ったYMCAに集う子どものうた、『ひかりのうた』を作り、秋の研修でお披露目コンサートを開くことができた。改めて子どもにかかわるYMCAの大切にしていることを確認するときとなった。

3. 週3日間、2歳児の預かり保育（2時間）。今年度は江東区で始まった「あずかーる」指定事業となり、補助金の対象となった。また今年度から満3歳児クラスもスタートし、園庭に小さな子どもたちの声が増えた。特に満3歳児クラスは誕生日の翌日から受け入れ可能であり、週3日で午前中のみの2歳児クラスで幼稚園に慣れてから、週5日で午後までの満3歳児クラスに移行することで、自然に幼稚園の生活に慣れていく流れができた。

この2クラスはこれまでの幼稚園と変わらない教育方針で、一人ひとりの想いを大切に、経験を通してゆっくりと学び合う。園庭で年少・中・長と異年齢の交わりもあり、次年度の園生活に繋がっている。

4. 子育て支援を目的とした預かり保育の時間を18時まで延ばしたことが定着してきた。保育園からの転園者も継続的に得られている。また、幼稚園に通わせながら仕事を始めることも当たり前を検討されるようになった。

C. 江東YMCAコミュニティーセンターとの一体化

世界をみつめ、地域に根差す江東YMCA幼稚園として、こどもを中心にしたコミュニティー創設のための働きを行う。江東ワイズメンズクラブのロールバックマラリアに園児たちのクリスマス献金のお捧げ、国際協力募金ではバングラディッシュのこどもたちへの識字教育、ハワイ（マウイ島）の山火事、ウクライナ、パレスチナの紛争救済支援、近隣の都立木場公園のチャイルドガーデン（チューリップの球根植え）など、一体化した地域社会の実現のために発信する幼稚園として継続することができた。

- D. 預かり保育の実施（1号認定対応14～16時、新2号認定対応8時～18時）2歳児クラスの充実など、保護者一人ひとりのニーズに寄り添う更に開かれた幼稚園を目指し継続した。

E. 教職員の質の向上。OJT研修とチームでの連携指導体制を強化した。

日々の職員会での各クラス園児一人ひとりの振り返りを共有する。

「江東区」「キリスト教保育連盟」「都私幼連」「東京YMCA教育保育事業部」の研修や幼稚園独

自の勉強会に参加する。

III. 総合的な評価と今後の課題

3. 親子遠足は近隣の公園にお弁当を持って出かけた。昼食はコロナ前のように親子でお友だち同士一緒に楽しく会食した。
4. 花の日礼拝の翌日（6月6日）に年長クラスはグループに分かれて訪問し、町会、交番、園医さんなど、お世話になっている地域の方々に感謝の花束をお渡しした。年中組は園内でお世話になっているスタッフの方々に、また、年少組はおまわりさんにご来園いただき、一人ひとりから感謝の花をお渡しした。
5. 運動会は扇橋小学校グラウンドをお借りし、応援の方々も人数制限をせずに開催できた。未就園児プログラムは例年通り、小学生プログラムも数年ぶりに行った。
6. バザーは、模擬店の飲食も含めてコロナ禍前の状況に戻し2年目、地域の方々にも開放し開催した。今年は幼稚園・コミュニティーセンターに関わる懐かしい方々が大勢お越しください、数十年ぶりの再会に喜ぶ姿が沢山見られた。
7. 年長組のお楽しみ保育（幼児教育・組織キャンプ）を2泊3日で実施、大学生がボランティアリーダーとして、教師とは違う目線で子どもと関ることが特徴である。

B. 保護者会でも以下の行事を行うことができた。

1. 7月に教職員と保護者との懇親の場、また2月には深川消防署の方をお招きして幼児の応急救護についての講演会を開催した。
2. 11月のバザーではコミュニティセンター他との協力のもと、3コーナーを請け負った。
3. 7月には幼稚園で日頃子どもたちに対して行っている礼拝に触れる機会、12月には牧師の先生をお招きして講和を頂き、在園保護者も聖書に親しむ機会を設けた。

C. 安全対策

1. 扇橋小学校のご協力により、小学校の体育館まで避難をする訓練は行うことができた。
（幼小の連携、津波対策など）
2. 様々な状況（火災・地震・津波など）に対応できるよう、月に一度、避難訓練を実施した。

D. 施設改修

1. キッチンの配管の修繕を行った
2. レク棟のトイレの修繕を行った
3. レク棟入口の下駄箱前をコーティングし、人工芝を敷設した。
4. 本館2階の2台と3階の1台、事務所のエアコンのドレンの調整を行った。
5. キッチン及び虹っこのお部屋のサッシ、ガラスの修繕を行った。

E. 新設クラスと園児募集

1. 今年度も定員を設けて来園型説明会、ウェブ説明会を行った。体験会では来園されて園内・園庭でそれぞれの想いを持ち活発に外遊びを楽しむ姿、砂場で存分に砂遊びを展開する子どもたちの楽しそうな様子を見て入園を決めてくださる方が多かった。
2. 2016 年秋より在園児預りクラス（くまっこクラス）を始めている。
3. 2024 年は、4 月から満 3 歳児クラス（ことりぐみ）をスタートした。満 3 歳児が毎日幼稚園に通うことができるようになった。2 歳児クラス（つくしぐみ）から満 3 歳児クラスに移行する流れができた。その結果、幼稚園年少組への入園に繋がった。
4. こぐま広場（6・7・9・10・11・12・2024 年 1・2 月の計 8 回）
0～5 歳児を持つファミリーへ園庭開放を実施、保育者が見守る中、安全が確保された環境で、思い思いに遊ぶこと、また保護者には子どもを見守りながらのカフェタイムの時間なども設け、親子共に楽しんでいただくことで地域とつながり、園をよく知っていただく機会となった。

IV. 学校関係者評価（各委員からの評価）

A. 在園保護者

教育目標である「主体的に生きる」が本年度も引き続き目に見えて実現されており、幼稚園に関わるすべての方が子どもたちのことを大切に思ってくださっていることが、私たち保護者にもよく伝わっています。いつ何をするにも先生方が子どもたちのことを第一に考えくださり、子どもたちが中心に居る環境に本当に感謝しています。そんな中で自分のやりたい遊びをやりたように思う存分楽しむ子どもたちの姿に、「この幼稚園を選んでよかった！」と心から思います。特に元気いっぱい年長組にも、一人一人の想いと「今」を大切に見守り寄り添って、子どもたちに合った保育を常に模索してくださる姿に感謝の気持ちでいっぱいです。

行事に関しても、子どもたちと話し合いながら準備からみんなで一緒に進めてくださるので、自分で考える力が身についたくさんの経験を通して子どもの成長を感じました。また 2 歳児、3 歳児と交わる機会に恵まれ、ひとりっ子の娘にも社会性が身についていることをうれしく思います。

預かり保育やお弁当型給食なども定着し、働くママにとっても良い環境が整いつつあると感じています。江東センターのプログラム(体操・サッカー・リトミック・ピアノ・バレエ・キッズ英語等)が充実している点も、ママたちに好評で今後も続いて欲しいなと思います。

B. 在園保護者

今年度も、この園の魅力であり変わらぬ方針である「主体的に生きる」を体現できる環境をつくり続けて下さったことに感謝です。

どんな時も子ども達を信じて見守って下さる先生方の存在がなにより大きく、子ども達も

それぞれのペースでしっかり応えていたと思います。年度末に近づく頃には、クラスごとのまとまり、そして園全体で奏でるハーモニーが美しく、本当に恵まれた良い時を過ごしているなと思うことが多々ありました。

効率化やスピードが求められる現代において、ここは真の豊かさとは何かを思い出させてくれる場所だと思います。

幼稚園の主役はもちろん子ども達ですが、保護者である私も、様々なかたちでこの幼稚園に関わらせていただくことで、生き方や在り方を見直すチャンス을いただいているのだと、この園に出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

園児数の減少や、虹っこ利用者の増加、保護者の幼稚園に対する意識の変化など、今、幼稚園は変革期の中にあると感じますが、変わらないもの、変えていくことをみんなで模索しながら、いつも子どもが真ん中で、主役であるこの園がどんな時代も守られて、さらに発展していくことを願ってやみません。

C. 在園保護者

子どもたちを見ていて、その時その時を大切に、充実した園生活を送っているなど日々感じます。もちろん楽しいことばかりではなく、様々な体験をするなかで、いろいろな感情を経験し知る、相手の感情を受け取る。そのような経験を通して、心の豊かさに繋がり、相手を思いやる心、そして自分を大切にする心を、この幼稚園で育てているのだと感じます。多くの豊かな経験こそが、子ども自身を成長させます。これは園長先生をはじめとする教職員の方々が、子どもたちの主体性を大切にしてくださり、寄り添い見守ってくださっているおかげであり、感謝いたします。

時代の変化に対応できるよう、幼稚園の仕組みも模索し変化してきているこの数年かと思っています。預かり保育の充実は大変ありがたく、母達の社会復帰という選択肢も増え、視野も広がったように感じます。その中で感じることは、様々な変化が起こっても、子ども達にとっての江東YMCA幼稚園の在り方は変わらないということです。変わらず安心できるあたたかさ、そのままを受け入れてくれる大好きな場所であり続けてほしいと思います。

虹の会、保護者としての幼稚園との関わり方もここ数年で変革の時を迎えています。様々な環境の保護者がいるなかで担えるものにも限度があるため、負担になっているところは減らせる仕組みづくりは今後も重要と考えます。いつでも中心には子ども達がいることは変わりません。幼稚園、子ども達、保護者のみんなで歩んでいけるよう、この時を一緒に大切に過ごせるような関わり、繋がりは今後も大切にしていってほしいと思います。

D. 在園保護者

今年度も変わらず、園の教育目標である「主体的に生きる」を基軸に、豊かな経験や遊びを通じて子ども達が自ら考えて行動する事を大切にしたい保育を行って頂けたと感謝しております。年長組では運動会の種目をはじめ、卒園遠足の行き先等を子ども達が話し合いの上で

決めており、時には意見がぶつかりながらも最終的には皆で一つの結論を出すプロセスを幼児期に経験できる事は大変貴重な機会であり子ども達の自信にもつながっています。

先生方は、一見見落としてしまいそうな子どもの変化や日々の小さな出来事も私たち保護者にきめ細やかに教えて下さり、その子の「今」を日々大切に下さっています。我が子の成長を共に見つめ、喜んで下さる園に通えている事を幸せに思います。

数年前から始まった預かり保育の延長、2歳児・満3歳児保育も定着してきています。保護者のライフスタイルやお迎え時間も多様化する中でも、保護者と園が円滑に情報共有を行えるよう今年度より「コドモン」という連絡ツールが導入され、欠席連絡等も当該アプリを通じて行えるようになる等、保護者の利便性向上を図って下さり、より多くの方が通いやすい環境が整ってきていると感じます。

保護者の活動においてもライフスタイルが多様化する中でも全保護者が快適な園生活を送り、保護者同士の横のつながりを楽しめるよう父母会の活動の見直しを進めています。まだまだ試行錯誤の段階にある為、今後も様々な保護者の声を聞きながら皆にとっても「最適」な形を目指し検討を継続する必要があると考えます。

今後の課題としては、上記のように時代のニーズに合わせて柔軟に対応しながらも「子ども」を中心においた保育スタンスが揺るがない、この魅力溢れる幼稚園をより多くの方に知って頂く方法を検討・整備する必要があると思います。先生方も園生活の様子をInstagramに発信する等積極的な情報発信に努めておられますが、園のホームページの刷新等より抜本的な対策が必要なのではないかと考えます。

一人でも多くのお子さんが江東YMCA幼稚園に出会い、我が子がそうであったように宝物のような3年間を過ごして下さる事を心から願っております。

E. 理事（学識経験者）

本園は遊びを通して主体性、社会性を育てることを教育目標に掲げている。その教育目標を実現すべく行われた遠足、地域への感謝、バザー、キャンプなどの諸行事が園内限定ではなく、保護者、地域コミュニティ、YMCAのリーダーとの関わりの中で展開されたことは意義深い。ほとんどの親が仕事をしている現代社会において、家庭だけでは十分とは言えない親子のふれ合いの機会を本園の行事が提供していることになる。

さまざまな国際協力事業に園児を関わらせているが、世界を見つめる園児の目は将来の国際平和の礎となる。それゆえ、その事業の意味を園児に分かり易く説明してやることが大切である。

礼拝等で宗教教育を行っているが、社会が一番大切にしなければならない「助け合い、分かち合い」という宗教理念の本質である「愛」を園児に教えることは大切である。

大切なお子様を預かっているのだから安全対策は最も重要事項であるが、施設の改修も適切に実施されている。月1回避難訓練を実施しているのは、園内での災害時に取るべき行動を子供たちが身につけるのには大いに役立つ。災害は時と場所を選ばないので、さらなる安全教育が望ましい。

2024年度より3歳児クラスを始めたが、子育て支援という時代の要請に応えたもので大いに評価す

べきことである。教職員の過重負担にならない体制を構築することが大切である。

教師全員で子供たちが豊かな経験ができるかを考え、本園の目標を基本に据えて年間行事を実践している。このみんなで考えるという体制を崩さないでもらいたい。

F. 地域関係者

幼稚園の教育方針を基に教職員は子どもたち一人ひとりの個性を大切に丁寧に関わっていることが伝わってくる。幼児期に必要なとされることは、いつの世にも変わらないが、社会の変化に応じて、子育てをする家庭環境の変化に応じて、保護者への支援をしようという気持ちを感じられる。たとえば今年度は新たに2歳児クラスが江東区の「あずかーる」に認定されたり、満3歳児クラスが開設されたりした。共働き家庭のお子さんも増えているようだが、保護者との関りは、しっかりと行われているようで保護者からの信頼も厚い。

教員間や家庭（保護者）とのコミュニケーションも大切に、全園児のことを全教諭で受け止め理解しようとしている結果かもしれない。常に子どもたちの安全を最優先して有意義な活動がなされている。これからもYMCAの総合力を生かして、地域と一緒に歩いてほしい。

G. 園長

今年度も江東YMCA幼稚園に関わる方々よりご忌憚のない評価をいただきましたことに心から感謝申し上げます。時代の変化に伴い、幼稚園の有り方の何を変化させていくことでより広く、より多くの子育て世代のご家庭に江東YMCA幼稚園の教育をお伝えすること、共に子どもたちにとって大切な幼児期の育みを行っていくことを願い、ここ数年試行錯誤し様々な取り組みをして参りました。今年度も、出来ることをスタートし、行ってきた1年間であったと思います。ただし、時代に沿った目に見える変化を進めると同時に、世の中がどのように変化しようとも変わらないYMCAとしての保育の理念・方針、江東YMCA幼稚園の子どもたちへの想いは変わることなく、「主体的に生きる」ためのより豊かな教育を考え環境を整え、保育者自らも人的環境として保育に邁進して参りました。多くの方々のお支えにより、子どもたちのありのままの心もちを受け止め、一人ひとりの想いを尊重し、寄り添い、共感し、自ら学び成長をしていく、その育つ力を信じた教育を行って来られましたこと、心から感謝申し上げます。沢山のご理解の中いただきましたご指摘・ご提案に関しましては、真摯に受け止め、対応して参りますこととお約束いたします。子どもたちが安全に過ごすための環境の改善は、これからも見直し、優先順位を定め、修繕計画を立て進めて参ります。また、保護者の方々にご所属いただいております「虹の会」などの保護者の皆様にご参加いただきます活動に関しましても、一緒に活動をすることで楽しいひとときとなるよう、今年度も更に改善が成されておりました。

時代のニーズに沿って変化することに躊躇することなく、しかし、変化してはならない、変化させてはならないことへの識別もしっかりとし、子どもたちの「今」を大切に、教育を大行って参ります。今後とも皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

以上